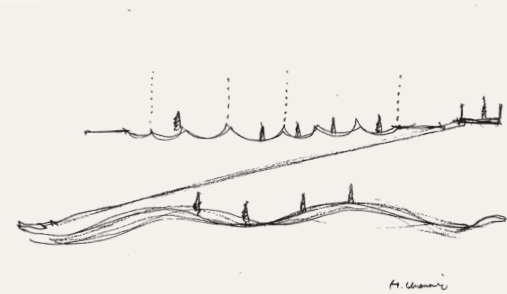


## 専任部署の整備室誕生と官民協働

Interview 佐久間貴士さん



## 複合施設の難しさとプロジェクト推進のカギ

須賀川市民交流センター（以下、図書館や貸館、こどもセンター（子育て支援センター、屋内遊び場、預かりルーム）、市民活動サポートセンター、円谷英二ミュージアム、テナント（コミュニティFMスタジオ、商業施設、チャレンジショップ）が併設された複合施設で、全国的に見てもこれほど多くの機能を持った公共施設はほとんどないのではないのでしょうか。複合施設を整備するうえで重要なポイントとは、大きく6点あると思います。1点目は、全体を統括するコントロールタワー的な組織とディレクター的な存在が必要であるということ。庁内関係部署（18課※1）や関係機関、関連事業者が多岐にわたり、調整作業のため膨大な会議（庁内関係会議約80回、設計関係会議約50回、建設関係会議約100回、各分科会約400回など）をこなさなければなら

ないため、現場で判断し、即決しなければ前に進みません。今回は整備室がその役割を担っていました。

2点目は、庁内関係部署に対して特に管理部門（財政、人事、法務）も含め、全庁的な政策課題としての共通認識と当事者意識を持ってもらうこと。それにはトップである市長の熱意や決意を伝えることが大切です。3点目は、議会の対応。トップに決定権がある民間企業とは違い、行政の決定権は議会にあり、議会の議決（予算や条例など）が必要になります。そのため、議会の日程を踏まえながらスケジュールを組み立てていくことが重要です。実際に（以下）においても実施設計と建築段階の2度にわたり予算の増額と工期の延長を行いました。特に今回は議会（震災復興対策特別委員会）から提言書が提出されていたため、提言内容を最大限尊重しな

がら進めました。4点目は、設計事務所やコンサルタント、アートディレクターといった専門分野の方々と一緒にチームとして取り組むこと。お互いの立場や役割などを理解し合いながら、いい意味で意見を戦わせることが大切です。5点目は、市民の意見を聞く手段として市民ワークショップなどを行う場合は、行政と市民の間に立つ第三者的な立場（ファシリテーター）の存在が重要だということ。要求と対立から提案と協調という関係性へ導いてもらえますからね。6点目は、担当職員が基本設計、実施設計、建設工事、管理運営まで一貫して関わられるようにすること。（以下）では初期のコアメンバーが一貫して関わることができたので、施設コンセプトの軸をぶれることなくつなぐことができました。

視察がもたらしてくれたもの  
チームとしての信頼

私は当初、施設のスケールや融合のコンセプトに対して懸念を抱いていました。吹き抜けやテラスが多いこと、施設全体に図書を配架することなどに、防犯面やコスト、責任区分、音響などで不安がありましたし、管理する側に配慮しないような設計に正直疑問を持っていました。実際はどうなのか、類似施設の先進地視察を考えていたところ、図書館コンサルタントのARGの岡本さんから視察の誘いを受けたため、設計者の畝森さんや佐藤さん、十河さん達と一緒に視察に行きました。岩手県紫波町の情報交流館オガールプラザを皮切りに、複合施設15カ所、



視察先では、建物や空間だけでなく、働くスタッフの方々のおもてなしや熱意から学ぶことも。いちばん大切なのは「ひと」。

図書館9カ所、その他の施設12カ所に足を運びました。自分の目で見て現地のスタッフから直接話を伺うことで、不安や懸念を少しずつ解消していくことができました。また、同時期に読んだ『つながる図書館』（猪谷千香氏著）から、図書館の役割が単に本を貸す機能から、市民生活に役立つ図書館、交流の場としての図書館、まちづくりとしての図書館へと大きく変わってきていることを知り、視察を通じてそれらも実感できました。そして何よりもみんなで一緒に同じものを見て、回れたことは、コミュニケーションをとるうえでとても重要でした。クライアントは須賀川市であって、設計者の満足だけではだめですが、かといって設計者が納得できるものではない。同じ時間を共有

したことによって、設計者の発想と施設を管理する行政の考えをお互いに理解し合えたことがよかったのだと思います。その結果、設計コンセプトを生かしながら、施設規模の縮減化など設計の見直しを図ることができました。また、行政がおろそかにしがちなデザインコントロールやPRなどの重要性を認識できたことも、よかったと思うことの一つですね。とにかく人に恵まれました。震災という突発的な状況下において、具体的な、基本構想や基本計画がない中で、設計作業と平行して管理運営方法や開館後の組織体制、人員、予算なども検討しなければならぬという、タイトで大変な仕事でしたが、震災復興の重点事業である市民交流センター（以下）の建設に責任者として関わられたことは、貴重な経験であり、市職員としてとてもありがたく、また誇りに思いますね。

から進めました。4点目は、設計事務所やコンサルタント、アートディレクターといった専門分野の方々と一緒にチームとして取り組むこと。お互いの立場や役割などを理解し合いながら、いい意味で意見を戦わせることが大切です。5点目は、市民の意見を聞く手段として市民ワークショップなどを行う場合は、行政と市民の間に立つ第三者的な立場（ファシリテーター）の存在が重要だということ。要求と対立から提案と協調という関係性へ導いてもらえますからね。6点目は、担当職員が基本設計、実施設計、建設工事、管理運営まで一貫して関わられるようにすること。（以下）では初期のコアメンバーが一貫して関わることができたので、施設コンセプトの軸をぶれることなくつなぐことができました。

※1 建築住宅課、企画財政課、行政管理課、人事課、秘書広報課、生活課、生涯学習スポーツ課、中央公民館、図書館、文化振興課、社会福祉課、こども課、商工労政課、観光交流課、道路河川課、都市整備課、水道施設課、下水道施設課

※ 主な先進地視察一覧：岩手県紫波町情報交流館・オガールプラザ/北上市文化交流センターさくらホール/せんだいメディアテーク/武蔵野プレイス/八戸ポータルミュージアム・はっち/東根市さくらんぼタントクレスト/塩尻市市民交流センター・えんばーく/結城市民情報センター/みんなの森 ぎふメディアコスモス/鹿角市文化の社交館・コモッセ/滝沢市文化交流拠点複合施設・ピクチャー滝沢/トコトコ大田原/田原市立図書館/岡崎市図書館交流プラザりぶら/多治見市立図書館/白河市立図書館/南相馬市立図書館



市民交流センター長  
佐久間貴士

平成26年に市民交流センター整備室が設置され室長を任される。現在はセンター長として訪れる利用者のために奮闘する日々。